

ミャンマー輸出促進セミナー開催される

2009年1月30日、日本アセアンセンターはミャンマー・ヤンゴンにおいて、「ミャンマー輸出促進セミナー」を開催しました。同セミナーには、ミャンマーの輸出業者や政府関係者などから希望者が殺到しましたが、最終的に63名の参加者を厳選して開催致しました。

冒頭、日本アセアンセンター総務部長代行 前川秀信から、センター事業の説明と日ミャンマー関係の一層の発展を期待する旨のあいさつがあり、その後、貿易部長代理／投資部長代理 折山光俊から、センターが開発したB2Bマッチングシステムである”BuyASEAN”と”BuyMyanmar”に関する説明がありました。

セミナーは、この”BuyMyanmar”の利用方法に関する説明のほか、日本のビジネス慣習や規制についての説明などもおこなわれました。

”BuyMyanmar”についての詳細説明は、システム開発者である三菱総合研究所情報技術研究センター主任研究員 飯尾淳氏が行いました。このシステムは、輸出者がウェブ上で企業情報や商品情報を登録するもので、インターネット環境があれば、誰でも簡単にアクセスできます。ミャンマーのインターネット普及率は低いというものの、輸出入業務をおこなう会社にとってはインターネットは必要不可欠なインフラでありミャンマーにおいても何らかの形で活用されています。また、ここに掲載されるデータは、ミャンマー商務省による認証を得たうえで公開される仕組みになっており、不正な情報が登録されることを極力防ぐことができるため、利用者（輸入者）は安心して利用することができます。



システムの説明

さらに”BuyMyanmar”は、開発に際しましてライセンス費用が不要なオープンソースソフトウェア（OSS）を活用しました。このため、低コストでの導入が可能となるとともに、ソースコードが公開されていることから、各国は本サイトを英語＋自国語に変更することも容易です。このことは今後の展開が容易となることを意味しています。

この”BuyMyanmar”のデータは、日本語のインターフェースを持つ”BuyASEAN.jp”に自動的に転送されるため、日本の輸入者は、日本語の画面でミャンマーを始めとしたASEAN各国の商品を検索することができますようになっています。

セミナーに参加した商務省職員や民間企業関係者より、このようなシステムは、情報発信のツールを持たないミャンマーの製造業者・輸出業者にとって画期的で理想的なツールであり、積極的に活用していきたいという意見が寄せられました。

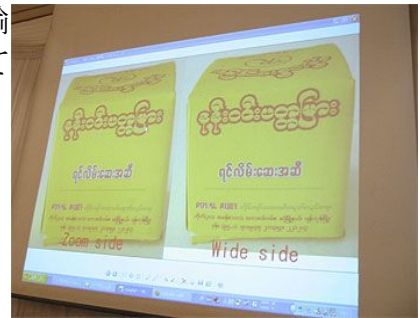


実際に操作をおこなう

セミナーでは、参加者に実際に企業データを入力してもらい、誰でも簡単に入力できることを実体験してもらいました。

また、商品の写真を掲載することによって、ビジネスマッチングに良い影響を与えることから、効果的な写真の撮り方の実習も行うとともに、食品や飲料に関する輸入手続きなど、ミャンマー側の輸出者が製品を作るに際して知っておいた方がよい情報などについても説明をおこないました。

参加者からは更に詳細な日本市場のトレンドなどの説明が欲しいという声がありましたので、センターが専門家を派遣する際に、併せて日本市場の説明をする機会を持ちたいと考えています。



写真の撮り方も説明

今後も日本アセアンセンターでは、ASEANの輸出者と日本の輸入者のマッチングの機会を提供するとともに、よりよいASEAN商品の日本への紹介に努め、お互いに繁栄していくことができるよう、さらに努力していきたいと思えます。